

薬学研究コースB 実習・演習

Laboratory Science Course B

コース科目 5年／前・後期 12単位 選択必修科目

科目責任者 佐藤 光利(薬学教育研究センター／医薬品安全性学研究室)

■教育目的

11月～12月においては、他コースが担当する特別講義・演習に合同で参加することによって、専門系科目における学習到達度の不十分な分野の復習、SGDを通じた問題解決能力を涵養することで「薬剤師の社会的使命を強く自覚した薬剤師及び医療系薬学研究者」の養成を図る。1月～3月にかけては、他コース特別講演会の他に、英語会話、文章表現、心理学、経済学、情報処理演習、生薬学、史学、社会学、倫理学などのリベラルアーツ・教養系特別講義を受けることによって、広い知識と視野を身につけ、よく考えて表現する態度を涵養することで「生涯に亘って学習する」習慣を身につける。【卒業認定・学位授与の方針：YD-①～⑤】

■学習到達目標

1. 各コース担当の特別講義・演習に参加し、それぞれのコースの特徴を説明できる。
2. 医療・倫理関連の時事問題事例を取り上げて解説・発表できる (SGD 及び PBL に基づく研究発表)。
3. 新たな視点からする経済学を学び説明できる。
4. 社会で役立つ文章表現を使用できる。
5. 病と癒しの歴史について紹介できる。
6. 交流分析 (TA) など心理学技法を使用できる。
7. 旅行医学の視点から自然の驚異と薬学について説明できる。
8. 英語会話を高め、海外の人と交流できるようになる。
9. 薬学に関わる情報処理技術を使用できる。
10. 薬学関連の知識技能に加え、身につけた一般教養を利用して発表できる。

■準備学習（予習・復習）

予習：事前に提示された科目内容の予備学習。(20分)

復習：当日の学習内容の確認と理解不足部分の補正により知識を確実なものとする。(30分以上)

■授業形態

課題解決型学習、ディスカッション・ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、双方向型授業、講義

■授業内容

授業内容は座学が中心ではあるが、薬局実務に関する PBL・SGD・プレゼンテーションや、臨床試験論文評価のためのグループワークや、高齢者体験の実習や、医療倫理関連のグループワークとプレゼンテーションなど、アクティブラーニング形式の授業も実施する。漢方薬局経営者や国立研究所研究員等、外部講師の実務経験にも学ぶ。

No.	項目	授業内容	SBOコード
1～100	①講義・演習(11月下旬～12月) ②講義・演習(1月～3月上旬)	①研究コースB以外の各コース担当の特別講義・演習、 ②リベラルアーツ関連科目などの講義・演習(10単位)	A 基本事項を中心とする全般
101～130	研究室セミナー・演習	配属研究室でのセミナー・演習(2単位)	

■授業分担者

佐藤 光利、川北 晃司(副責任者)、特別コース担当教員、外部講師、配属研究室教員

■課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

課題のフィードバック：個別に質問や問題点を受け付け、面談して指導する。

成績評価方法：出席状況(60%)、配属主任教員による評価(10%)、演習でのレポートおよびプレゼンテーション等(30%)で評価する。

■教科書

授業内容に応じて担当教員が指定することがある。

■その他

外部実習では健康上の理由や慶弔事などのように特別な理由がない限り欠席が認められていないことを鑑みて、本コースにおいても特別な理由がない限り講義(演習を含む)の欠席は認められないので、単位取得要件に注意すること。